

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成31年4月25日(2019.4.25)

【公開番号】特開2019-37286(P2019-37286A)

【公開日】平成31年3月14日(2019.3.14)

【年通号数】公開・登録公報2019-010

【出願番号】特願2017-159169(P2017-159169)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【FI】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成31年1月30日(2019.1.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

判定の結果に応じた発光が可能とされる複数の発光手段と、
遊技者による輝度設定操作が受け付けされると、発光輝度にかかる設定値の変更を受け付ける輝度設定値受付手段と、
前記輝度設定値受付手段による設定値に基づいて発光輝度を調整可能な輝度調整手段とを備え、
前記輝度設定値受付手段によって設定値の変更が受け付けられて該変更された設定値が反映されるかたちで前記輝度調整手段によって発光輝度が調整されるときに輝度調整確認音を可聴出力しうる遊技機であって、
当該遊技機が特定の状態になると前記複数の発光手段のうち少なくとも特定発光手段が前記輝度調整手段による調整対象から外されて異常報知発光を実行するようになっており、
前記特定発光手段による異常報知発光が実行されている発光報知期間と、前記特定発光手段による異常報知発光が実行されていない通常期間とのいずれにおいても、遊技者による輝度設定操作によって輝度調整確認音の可聴出力が可能とされ、
前記発光報知期間には、第1報知期間と、該第1報知期間が終了してから当該発光報知期間が終了されるまでの第2報知期間とが含まれており、当該発光報知期間のうち前記第2報知期間においては遊技者による輝度設定操作によって輝度調整確認音が可聴出力されるが、当該発光報知期間のうち前記第1報知期間においては輝度調整確認音が可聴出力されることはないようになっており、
さらに、
演出動作しうる可動装飾体と、
前記判定の結果に基づく図柄変動に対応する復元時期が到来したとき、正常状態にない可動装飾体に対して復元動作を行わせうる復元実行手段と
を備え、
さらに、
前記可動装飾体が復元動作を実行しているときに前記図柄変動に対応する復元時期が新たに到来した場合、該復元動作を実行している状態にある当該可動装飾体については、該新たに到来した復元時期を契機として該復元動作のやり直しを行うことなくこれを継続し

て実行可能であり、
さらに、

前記図柄変動に対応する復元時期が到来した時点において正常状態であった前記可動装飾体が、該可動装飾体とは別の可動装飾体が復元動作を実行しているなかで正常状態ではなくなった場合、該可動装飾体は、当該可動装飾体が正常状態ではなくなってから前記図柄変動に対応する復元時期が一度も到来していない状況であったとしても、前記別の可動装飾体の復元動作が終了したことに基づいて復元動作を開始しうる

ことを特徴とする遊技機。

【請求項2】

判定の結果に応じた発光が可能とされる複数の発光手段と、
遊技者による輝度設定操作が受け付けされると、発光輝度にかかる設定値の変更を受け付ける輝度設定値受付手段と、

前記輝度設定値受付手段による設定値に基づいて発光輝度を調整可能な輝度調整手段と
遊技者による音量設定操作が受け付けされると、音量にかかる設定値の変更を受け付ける音量設定値受付手段と、

前記音量設定値受付手段による設定値に基づいて音量を調整可能な音量調整手段と
を備え、

前記輝度設定値受付手段によって設定値の変更が受け付けられて該変更された設定値が反映されるかたちで前記輝度調整手段によって発光輝度が調整されるときに輝度調整確認音を可聴出力しうるとともに、前記音量設定値受付手段によって設定値の変更が受け付けられて該変更された設定値が反映されるかたちで前記音量調整手段によって音量が調整されるときに音量調整確認音を可聴出力しうる遊技機であって、

当該遊技機が特定の状態になると前記複数の発光手段のうち少なくとも特定発光手段が前記輝度調整手段による調整対象から外されて異常報知発光を実行するようになっており、

前記特定発光手段による異常報知発光が実行されている発光報知期間と、前記特定発光手段による異常報知発光が実行されていない通常期間とのいずれにおいても、遊技者による音量設定操作によって音量調整確認音の可聴出力が可能とされ、

前記発光報知期間には、第1報知期間と、該第1報知期間が終了してから当該発光報知期間が終了されるまでの第2報知期間とが含まれており、当該発光報知期間のうち前記第2報知期間においては遊技者による音量設定操作によって音量調整確認音が可聴出力されるが、当該発光報知期間のうち前記第1報知期間においては音量調整確認音が可聴出力されることはないようになっており、

さらに、

演出動作しうる可動装飾体と、

前記判定の結果に基づく図柄変動に対応する復元時期が到来したとき、正常状態にない可動装飾体に対して復元動作を行わせうる復元実行手段と

を備え、

さらに、

前記可動装飾体が復元動作を実行しているときに前記図柄変動に対応する復元時期が新たに到来した場合、該復元動作を実行している状態にある当該可動装飾体については、該新たに到来した復元時期を契機として該復元動作のやり直しを行うことなくこれを継続して実行可能であり、

さらに、

前記図柄変動に対応する復元時期が到来した時点において正常状態であった前記可動装飾体が、該可動装飾体とは別の可動装飾体が復元動作を実行しているなかで正常状態ではなくなった場合、該可動装飾体は、当該可動装飾体が正常状態ではなくなってから前記図柄変動に対応する復元時期が一度も到来していない状況であったとしても、前記別の可動装飾体の復元動作が終了したことに基づいて復元動作を開始しうる

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】【補正対象書類名】明細書【補正対象項目名】0005【補正方法】変更【補正の内容】

【0005】

このような従来の遊技機では、遊技興趣の低下が懸念される。【手続補正 3】【補正対象書類名】明細書【補正対象項目名】0007【補正方法】変更【補正の内容】

【0007】

手段 1：判定の結果に応じた発光が可能とされる複数の発光手段と、遊技者による輝度設定操作が受けされると、発光輝度にかかる設定値の変更を受け付ける輝度設定値受付手段と、前記輝度設定値受付手段による設定値に基づいて発光輝度を調整可能な輝度調整手段とを備え、前記輝度設定値受付手段によって設定値の変更が受け付けられて該変更された設定値が反映されるかたちで前記輝度調整手段によって発光輝度が調整されるときに輝度調整確認音を可聴出力しうる遊技機であって、当該遊技機が特定の状態になると前記複数の発光手段のうち少なくとも特定発光手段が前記輝度調整手段による調整対象から外されて異常報知発光を実行するようになっており、前記特定発光手段による異常報知発光が実行されている発光報知期間と、前記特定発光手段による異常報知発光が実行されていない通常期間とのいずれにおいても、遊技者による輝度設定操作によって輝度調整確認音の可聴出力が可能とされ、前記発光報知期間には、第 1 報知期間と、該第 1 報知期間が終了してから当該発光報知期間が終了されるまでの第 2 報知期間とが含まれており、当該発光報知期間のうち前記第 2 報知期間においては遊技者による輝度設定操作によって輝度調整確認音が可聴出力されるが、当該発光報知期間のうち前記第 1 報知期間においては輝度調整確認音が可聴出力されることはないようになっており、さらに、演出動作しうる可動装飾体と、前記判定の結果に基づく図柄変動に対応する復元時期が到来したとき、正常状態にない可動装飾体に対して復元動作を行わせうる復元実行手段とを備え、さらに、前記可動装飾体が復元動作を実行しているときに前記図柄変動に対応する復元時期が新たに到来した場合、該復元動作を実行している状態にある当該可動装飾体については、該新たに到来した復元時期を契機として該復元動作のやり直しを行うことなくこれを継続して実行可能であり、さらに、前記図柄変動に対応する復元時期が到来した時点において正常状態であった前記可動装飾体が、該可動装飾体とは別の可動装飾体が復元動作を実行しているなかで正常状態ではなくなった場合、該可動装飾体は、当該可動装飾体が正常状態ではなくなってから前記図柄変動に対応する復元時期が一度も到来していない状況であったとしても、前記別の可動装飾体の復元動作が終了したことに基いて復元動作を開始しうることを特徴とする遊技機。【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0008
【補正方法】削除
【補正の内容】